

(様式)

平成28年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・つくりだす喜びを味わう姿がよく見られる。すてきな作品をつくろうという意欲があり、進んで活動に取り組む児童が非常に多い。
- ・技能を確実に習得させるための支援を継続的に行ったことで、技能の定着と応用については、学年が上がるにつれて向上している。
- ・児童作品の相互鑑賞を日常的に行ったこともあり、美術作品や他児童の作品への関心が高い。進んで作品の良さに気付こうとする姿がよく見られる。

(2) 課題

- ・作品に粘り強く向き合い丁寧に完成させる力をつけさせたい。集中力とやる気を高められるよう継続的に支援していく。
- ・技能の定着・応用について、向上が見られているが、継続して指導をしていく。
- ・鑑賞に関心をもつ児童が多いので、鑑賞教育の充実を図り、表現に生かせるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率 (経年比較)

	平成28年度結果	平成27年度結果	平成26年度結果
第4学年			
第5学年		(第4学年時)	
第6学年		(第5学年時)	(第4学年時)

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
作品制作時の集中力に個人差が見られる。 <u>多くの児童に、より良い作品をつくろうと努力する姿勢が見られる。しかし、細部の仕上げが十分でない児童が少数だがいる。</u>	<u>自分や友達の面白い発想やひらめきに価値を見出している様子が見られる。</u> 作品づくりの見通しをもって進められる児童とそうでない児童がいる。 図画工作で扱う材料に慣れてきて、特性	<u>表したいことや用途を考えながら、形や色、材料の特徴を生かそうとしている児童が多い。しかし、技能面で課題がある児童もいる。例えば水彩絵の具の場合、水加減や色の混ぜ方を工夫できる児童は</u>	<u>美術作品や友人の作品への興味がとても強く、もっと見たい、もっと知りたい、という気持ちが強く見られる。</u> 感じたことを言葉に表す力に個人差があり、上手に感想を書ける児童と、感じた

	を生かして工夫しようとする姿勢が見られる。	多いが、ねらった箇所に思い通りの分量の絵の具を塗るといような手先のコントロールが苦手な児童がいる。	ことを表現しきれていない児童がいる。
--	-----------------------	---	--------------------

② 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
作品制作や鑑賞に集中して取り組んでいる。より良い作品をつくらうとする意欲が感じられる児童が多い。今までに経験したことがない課題に取り組む際は慎重になりがちな児童がいる。	自分独自の作品をつくらうと試行錯誤している姿がよく見られる。その際に悩んで取り組みが遅れてしまう児童がいる。制作のスピードは速くなったのだが、制作を始める以前の構想を練る時間が長く必要である。	今までに学習した事柄の活用ができている。新しい課題に取り組む際も、これまでの経験で活用できる技能を活用し、表したいことに合わせて使い分けられる児童が多い。	美術作品の鑑賞の際は、考えながら作品を観て、その良さを認め、自分の作品に生かそうとしている。自分が感じたことについて全体に発言することに積極的でない児童もいるが、ワークシート等に書かせると自分の言葉で表現できている児童が多い。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
つくりだす喜びを味わえるよう、集中・熱中できるような楽しい題材を選ぶ。体全体を使って伸び伸びと造形活動に親しめるよう、造形あそびの時間を充実させる。	独自のアイデアを出すことの素晴らしさを伝える。自分らしさを出す工夫をしている児童を賞賛する。造形遊び等での共同制作を通して色々なアイデアを出し合わせる。	身近な材料や扱いやすい用具に触れ、十分慣れさせながら手を働かせて使う。基本的な扱いについて、繰り返して定着させる。	美術作品や他児童の作品に興味をもつ児童が多い。作品の発表が好きなので、全員が発表できる機会をつくる。よさや面白さを感じ取る機会をたくさん作る。

(2) 中学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
集中力を持続させられるよう、環境の整備や全体指導の工	事前に計画を立ててもその通りにいかない児童がいる。無理	学年が上がるにつれ、細かい作業が必要なものを作りたい	他の児童の作品や美術作品に対する興味を更に増やせるよ

<p>夫、個々の支援を行う。 細部の仕上げの必要性と、それによってより良い作品になることを理解させ、作品と向き合うことで改善点に気付かせるよう努める。</p>	<p>のない作業計画について全体に指導するとともに、計画を立てる際に個別に支援を行っていく。</p>	<p>という欲求が増える。手先の巧緻性を養うために、繰り返し道具に慣れさせるようにする。ねらい通りの表現ができるよう、コツを繰り返し指導する。児童同士の教え合いも促す。</p>	<p>う、鑑賞の時間を確保する。 鑑賞に関わる語彙が増えるよう、自分の考えを表現する機会を増やしながらか、指導する。</p>
---	--	--	--

(3) 高学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>より良い作品をつくらうとする意欲を生かし、継続できるよう支援する。 今までに経験したことがない課題に取り組む際は緊張しがちな児童がいるので、事前に準備になるような課題を行い、楽しんで取り組めるようにする。</p>	<p>試行錯誤する時間が長く、取り組みが遅れてしまう児童への支援が必要である。 制作を始める以前の構想を練る時間が多く必要なので授業を行う際の時間配分に気を配り、個別の声掛けや参考資料の提示などの支援を行う。</p>	<p>今までに学習した事柄の活用ができる児童が多いので、今までに取り組んだことのない課題や難易度が高めで達成感のある課題を用意することで、更なる活用の機会を増やし技能の向上を目指す。</p>	<p>美術作品の鑑賞の時間を増やす。グループ発表等、意見交換の場を設ける。 感じたことや思ったことを話し合う活動の中で、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえる機会を多くつくる。</p>